

# 第10期 定時株主総会

2021年6月22日（火）



サノヤスホールディングス株式会社

## 景気動向

新型コロナウイルスの  
世界的流行



日本国内においても  
個人消費の減少、企業の  
経済活動の制約により  
景況は大きく下降

## 当社を取り巻く環境

コロナ禍に伴うインバウンド観光客の劇的な減少をはじめ、行動制限による商談機会の減少が受注活動に大きな制約となり、極めて厳しいものとなった。

## 造船事業の譲渡

2021年1月15日 臨時株主総会決議

2021年2月28日 (株)新来島どっくへ譲渡

世界的な船腹と造船所の過剰による船価低迷、赤字受注の継続

環境技術開発競争に打ち勝つための継続的投資

これらに当社の財務体力では生き残れないと判断し、造船事業の継続を(株)新来島どっくに託した。

## 豪州観覧車事業の譲渡

2021年1月31日 サノヤス・ライド (オーストラリア) をROBUグループ (スイス) に譲渡

## グループ内事業再編

2021年1月4日 サノヤス造船(株)のプラント事業をサノヤス・プラント工業(株)として分社化

2021年4月1日 サノヤス・プラント工業(株)とみづほ工業(株)が合併

## 本社機構の再編・整備

2021年3月1日 サノヤスMTG(株)をサノヤステクノサポート(株) (STS) に社名変更

2021年4月1日 当社 (HD) がシステム部門をSTSに分割承継

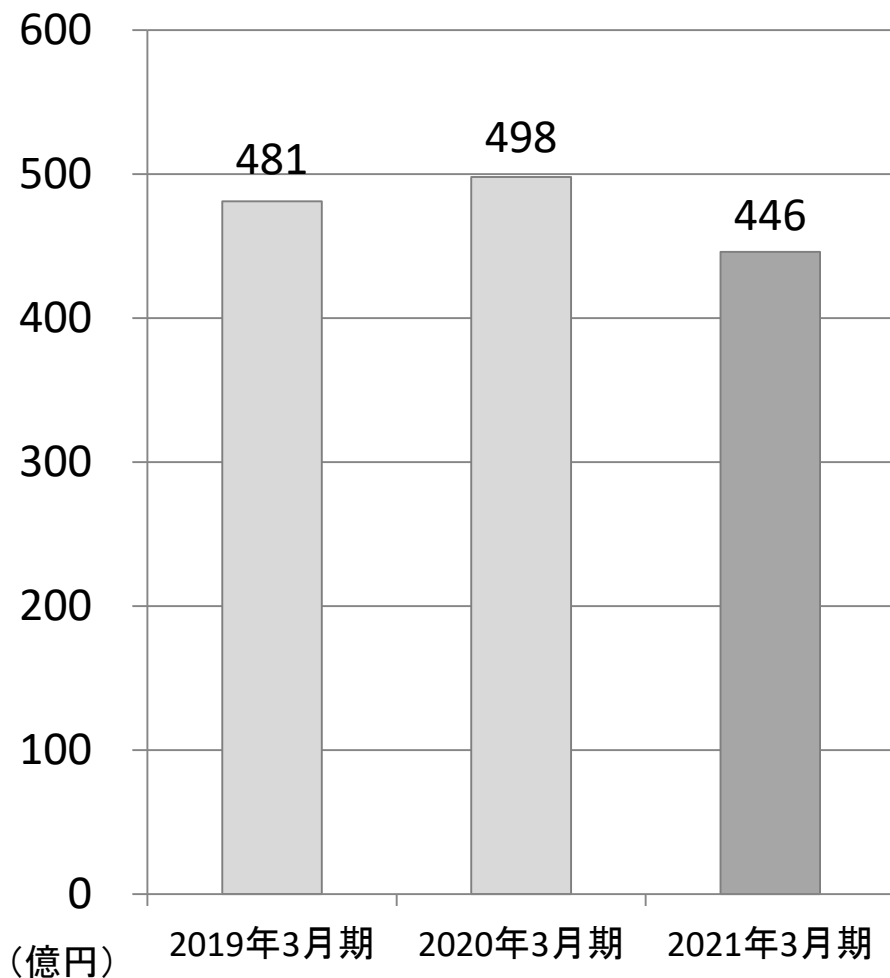
STSの所有する事業会社株式全部をHDに分割承継

HDとSTSは本社機構として機能分担

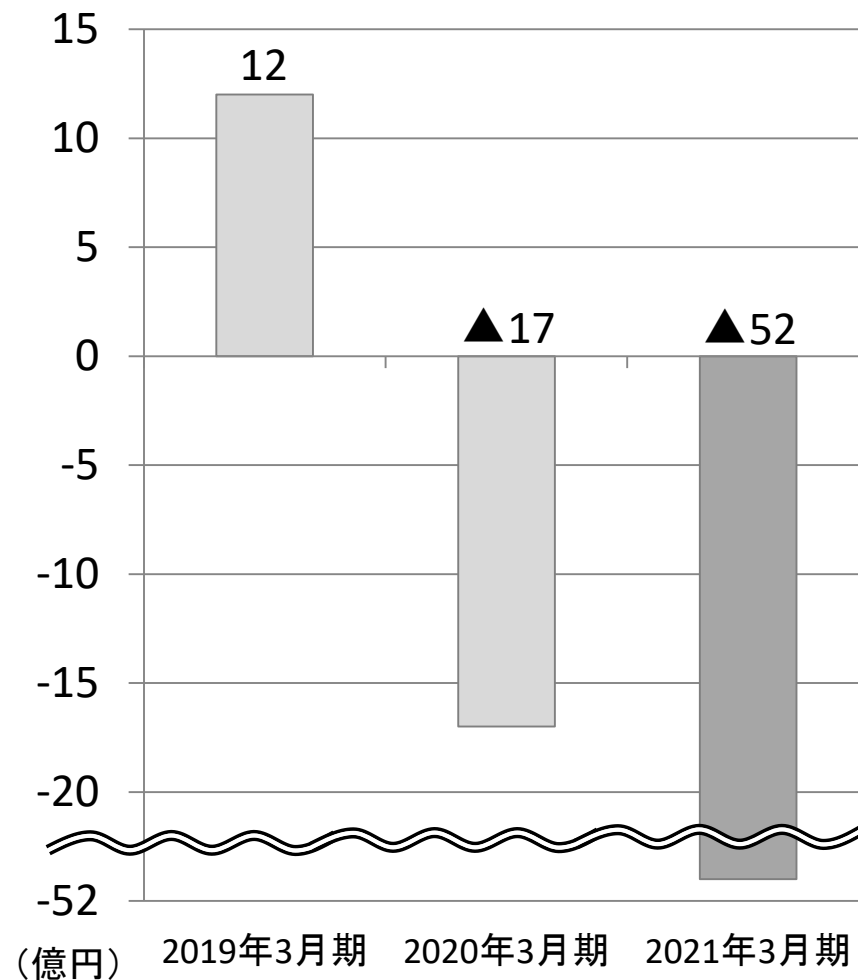
# 連結売上高・営業損益



## 連結売上高

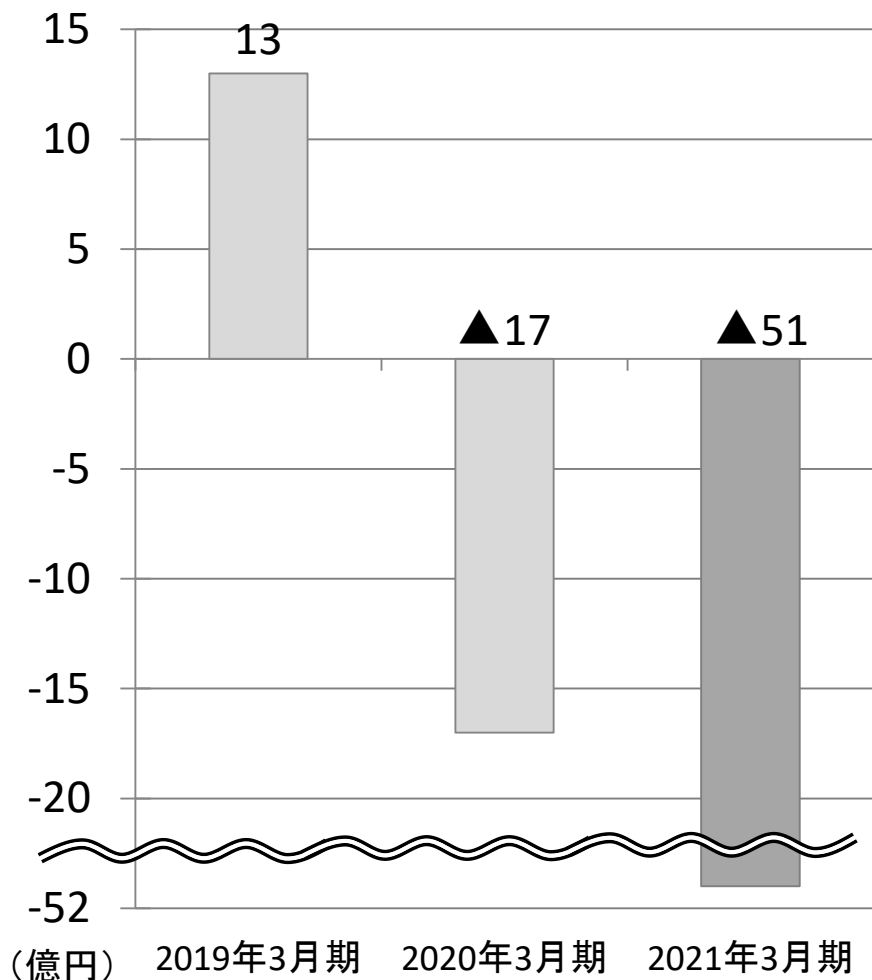


## 連結営業損益

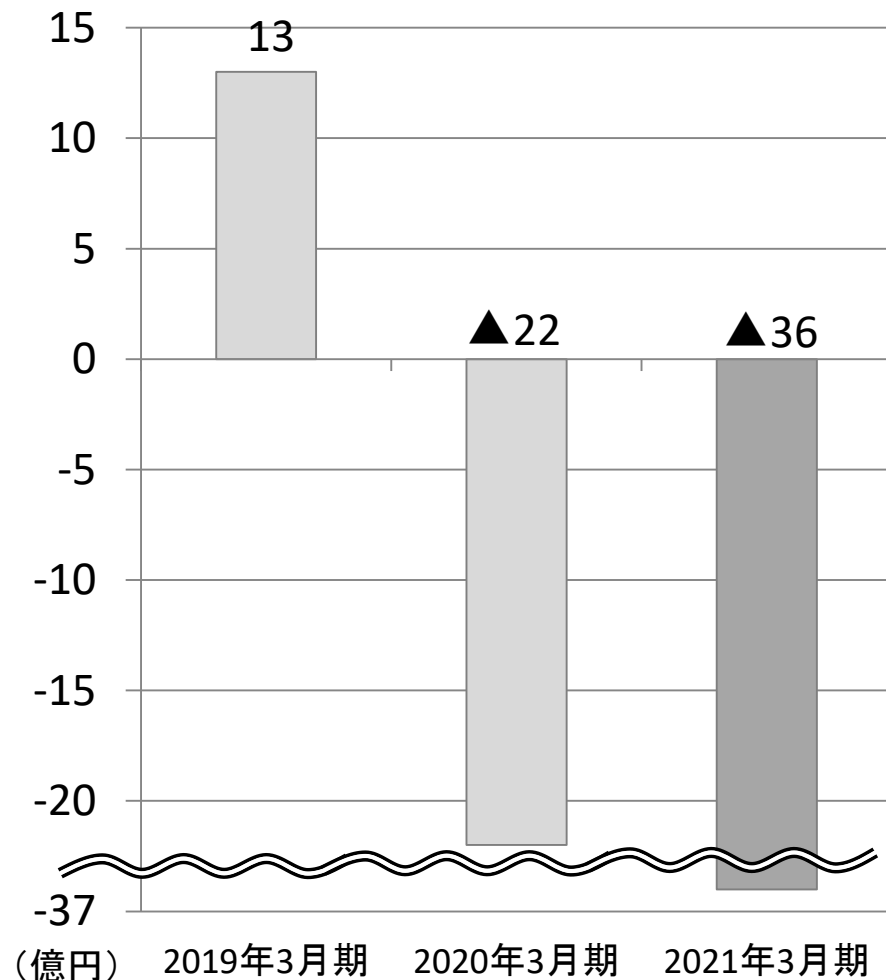


※表示単位未満は切り捨てしています。

## 連結経常利益



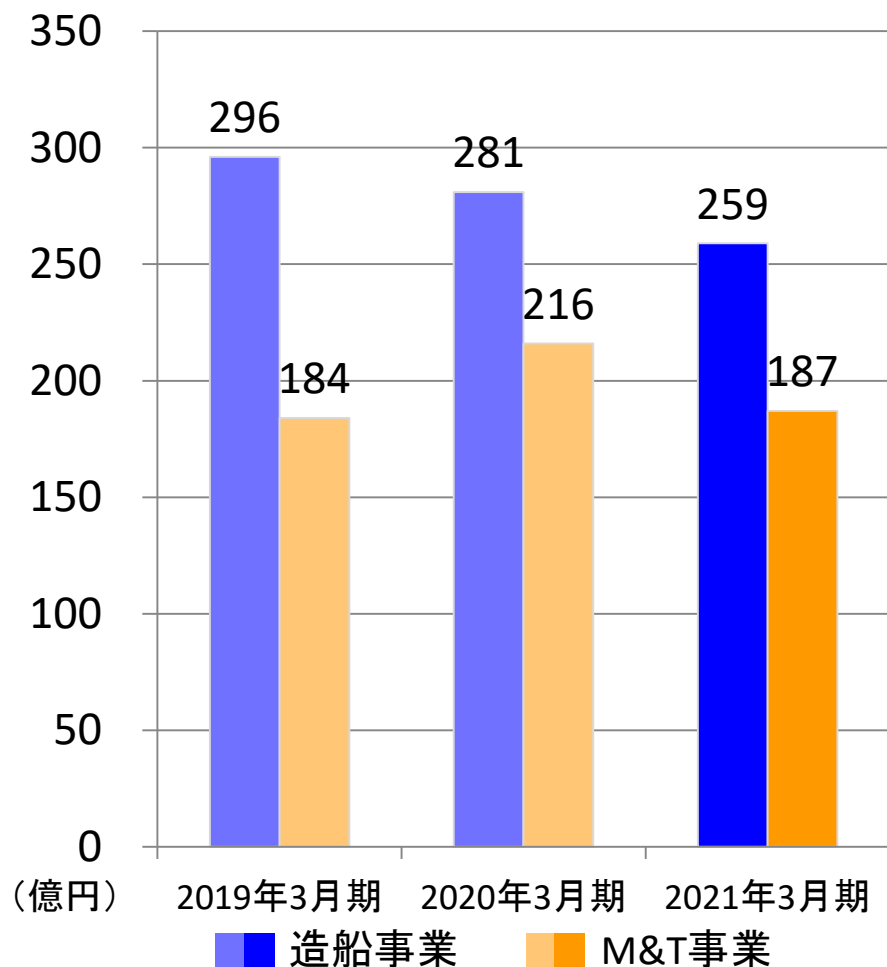
## 親会社株主に帰属する当期純損益



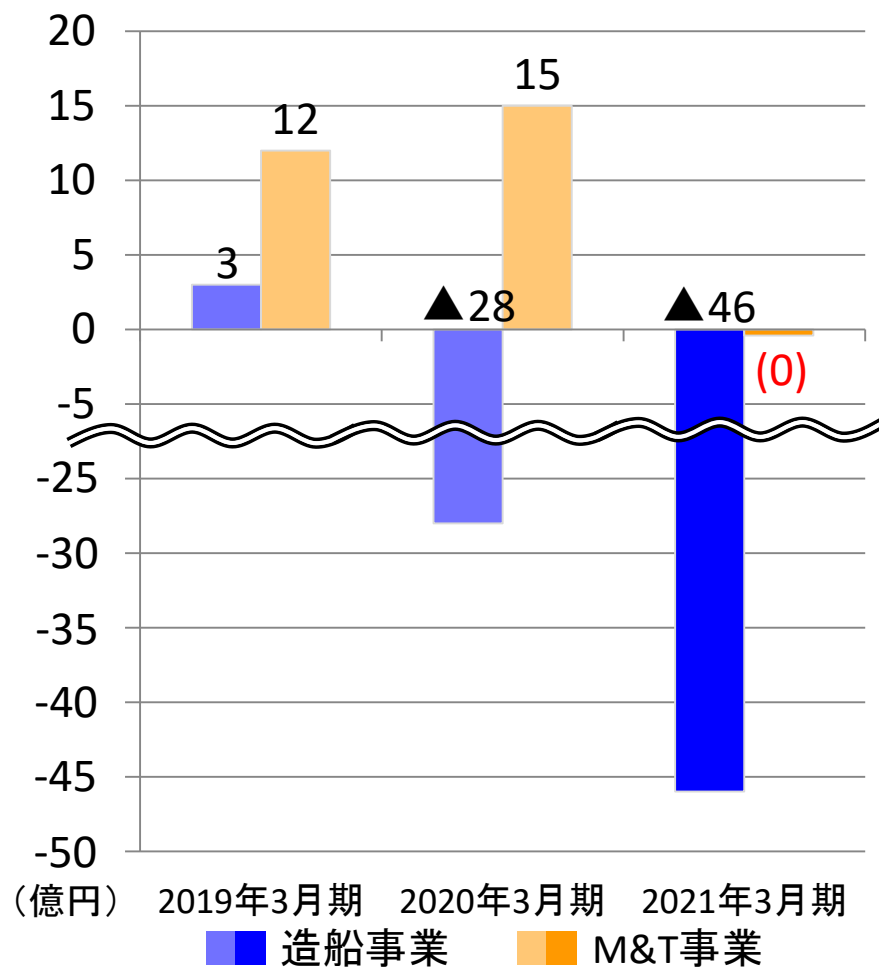
# 売上高・営業損益（事業別）



## 売上高（事業別）



## 営業損益（事業別）



# 連結貸借対照表



(億円)

資産の部		負債の部	
流動資産	136 ( $\begin{matrix} \triangle 242 \\ \triangle 64.0\% \end{matrix}$ )	流動負債	101 ( $\begin{matrix} \triangle 181 \\ \triangle 64.1\% \end{matrix}$ )
		固定負債	91 ( $\begin{matrix} \triangle 145 \\ \triangle 61.5\% \end{matrix}$ )
		<b>負債合計</b>	<b>193 ( <math>\begin{matrix} \triangle 327 \\ \triangle 62.9\% \end{matrix}</math> )</b>
		内 有利子負債	100 ( $\begin{matrix} \triangle 153 \\ \triangle 60.5\% \end{matrix}$ )
固定資産	127 ( $\begin{matrix} \triangle 130 \\ \triangle 50.6\% \end{matrix}$ )	<b>純資産の部</b>	
		<b>純資産合計</b>	<b>70 ( <math>\begin{matrix} \triangle 45 \\ \triangle 39.1\% \end{matrix}</math> )</b>
		自己資本比率	26.5% (+8.3ポイント)
<b>資産合計</b>	<b>264 ( <math>\begin{matrix} \triangle 372 \\ \triangle 58.5\% \end{matrix}</math> )</b>	<b>負債及び 純資産合計</b>	<b>264 ( <math>\begin{matrix} \triangle 372 \\ \triangle 58.5\% \end{matrix}</math> )</b>

## 新サノヤスグループ 中期経営計画2021

### 計数目標

2024年度に

**売上高 300億円、経常利益率 6%、ROE 10%** を目指す  
2021年度から **配当性向30%（最低5円配当）**

### 成長戦略

『技術オリエンテッド』 × 『ハイサイクル経営』  
でニッチトップの集合体を目指す

技術オリエンテッド：地道な技術開発とカイゼンといった技術革新を経営の中核に据えること

ハイサイクル経営：意思決定・実践・課題分析のサイクルと、経営トップと第一線の相互の意思疎通が、ともに早いスピードで回る経営